

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	特色ある学校教育プラン推進事業							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・二宮町学びづくり推進研究事業補助金、特色ある学校教育プラン推進事業補助金の活用							
根拠法令・条例等	特色ある学校教育プラン推進事業補助金要項							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		教育機関である学校の運営や教育活動の根幹をなす研究事業に対する経費のため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		各校で計画的に事業を執行している。コミュニティ・スクールの指定が開始されると、特色ある学校教育プラン推進事業補助金について効率化を進められる可能性がある。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 二宮町学びづくり推進研究事業では、指導案検討から授業実践、学習会に至る研究サイクルが確立され、授業改善への取組が強化されている。		

## 総合評価

実績	二宮町学びづくり推進研究事業では、指導案検討から授業実践、学習会に至る研究サイクルが確立され、授業改善への取組を強化することができた。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	特になし		
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	教員の授業力向上、学校の特色を生かした学校運営		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,230	1,230	1,175	1,088		
財源内訳	一般財源	1,230	1,230	1,175	1,088		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 事業主体が町立学校であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 事業主体が町立学校であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 各校における研究サイクルが確立され、他校の研究授業にも参加する機会が増えた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 各校に講師謝礼等研究にかかる経費を配分し、適切に執行された。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 各校の研究サイクルが確立され、教員の授業力向上に向けた取組を前進させることができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	地域教育力推進事業							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・体育・文化活動指導員、学習協力者の活用							
根拠法令・条例等	地域教育力推進事業実施要項 学習協力者派遣事業実施要項							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	各校で、配当された予算内で外部講師を手配しており、地域の方には学校の学習活動ということで、薄謝にてご指導いただいている。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	今後、コミュニティ・スクールの指定が開始されると、学校と地域との新たな結びつきを基礎に、効率化が進む可能性がある。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 当事業を契機に、より一層地域の人材発掘を進めていく必要がある		

## 総合評価

実績	各校に体育・文化活動指導員、学習協力者を配置した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	特になし		
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			各校の指導員、協力者の人数、時間数等は町教委から各校に年度当初に割り当てを行っているため、数値による指標の設定は困難である。

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,072	1,012	1,050	889		
財源内訳	一般財源	1,072	1,012	1,050	889		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町立学校における学習活動に必要な事業のため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町立学校と町教育委員会が連携して行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 各校の部活動、授業等で専門的な知識・技能を持つ方から直接指導を受けることができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 指導員、協力者のご理解のもと、少ない金額で学習活動にご協力いただいている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 地域と連携してより良い学習活動となるよう、当事業を進めていく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 コミュニティ・スクールの導入に伴い、地域とどのように連携していくかを再検討する。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 コミュニティ・スクールの導入することによって、地域とのかかわり方、連携の仕方を見直し、事業や学習活動のあり方を再検討していく。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	英語教育推進事業				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	・各学校へのALTの配置及び英語検定受験の奨励				
根拠法令・条例等	二宮町英語教育推進事業実施要項、ALT活用要項 二宮町英語検定奨励金交付要綱				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	小学校高学年での外国語(英語)の教科化に向け、事業内容の拡充が見込まれる。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	今後の小学校での外国語(英語)の教科化等に伴い、ALTの配置について検討を加えていく。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	小学校高学年での外国語(英語)の教科化、中学年での外国語活動の導入に向け、次年度以降の事業展開について検討が必要である。	

## 総合評価

実績	ALTによる授業や英語活動、英語検定奨励金等の諸事業が順調に進められた。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上、小学校教員の英語教科化等への対応	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		9,662	9,472	9,733	9,634		
財源内訳	一般財源	9,662	9,472	9,733	9,634		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町立学校における学習活動に必要な事業のため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町立学校における学習活動に必要な事業のため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 ALTの各校配置等とおして、児童生徒の英語学習、英語活動への関心を高めることができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 概ね順調に事業を執行できた。ALTにかかる委託料は大きいですが、教育的効果を考えると妥当な額と考える。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 小学校高学年における英語の教科化や小中一貫教育の検討等に向けて研究が進んでいる。今後の英語教育に対応して更なる事業の推進を行う必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)	
予算等事業名	教育振興経費			
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓病判定委員会、就学指導委員会教育支援委員会の開催</li> <li>・学校管理下における怪我に備えた保険への加入</li> <li>・水泳教室送迎バス借上</li> </ul>			
根拠法令・条例等	学校保健安全法 独立行政法人日本スポーツ振興センター法			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>
			③ 未実施	
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	28年度から町民温水プールを利用した水泳授業を実施している。引き続き今年度の反省点と各校の意見を踏まえて、次年度以降の計画を進めていく。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	水泳教室送迎バス借上については、関連部署と調整し、より効率的な実施に向けて検討を図る必要がある。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	学校保健等の事業は順調に進められている。水泳授業は、予定通り実施することができた。引き続きより効率的な実施に向け検討を重ねる必要がある。	

## 総合評価

実績	学校保健等の各事業が順調に進められた、また、水泳授業についても生涯学習課の協力を得て、温水プールも使い、予定どおり実施することができた。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	特になし			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の円滑な学習活動を行うとともに安心して学校生活を送るための環境整備

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,765	4,604	2,816	2,790		
財源内訳	一般財源	4,765	4,604	2,816	2,790		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町立学校における学習活動、学校運営に必要な事業のため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町立学校における学習活動、学校運営に必要な事業のため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 各種事業が着実にすすめることができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 水泳の授業については、28年度の反省点から見直しを行い、29年度については適切に運営できた。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校保健事業等が着実にすすめられた。水泳授業の実施については、各校から意見を聞いて、きちんと計画通りに進めることが出来た。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課			
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	二宮小学校教育振興経費					
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。					
内容	・教育効果向上に資する消耗品・備品購入等					
根拠法令 ・条例等						
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。				

## 総合評価

実績	学校の運営(授業・学習関係)にかかる経費について、適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の教育効果の向上	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,427	2,383	2,038	1,837		
財源内訳	一般財源	2,427	2,383	2,038	1,837		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費の投入により、家庭の経済的負担を軽減している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 児童生徒の学習に関する備品等は、限りある予算の中で優先順位をつけ整備している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費投入については二宮町の特色であり維持すべきと思われるが、限られた予算の中でどのように本事業を継続していくか検討が必要と考えられる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	一色小学校教育振興経費							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・教育効果向上に資する消耗品・備品購入等							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。					

## 総合評価

実績	学校の運営(授業・学習関係)について、適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の教育効果の向上	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,631	1,514	1,283	1,283		
財源内訳	一般財源	1,631	1,514	1,283	1,283		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費の投入により、家庭の経済的負担を軽減している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 児童生徒の学習に関する備品等は、限りある予算の中で優先順位をつけ整備している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費投入については二宮町の特色であり維持すべきと思われるが、限られた予算の中でどのように本事業を継続していくか検討が必要と考えられる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	山西小学校教育振興経費							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・教育効果向上に資する消耗品・備品購入等							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。							

中間 評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。					

## 総合評価

実績	学校の運営(授業・学習関係)について、適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の教育効果の向上	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,862	1,831	1,513	1,389		
財源内訳	一般財源	1,862	1,831	1,513	1,389		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費の投入により、家庭の経済的負担を軽減している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 児童生徒の学習に関する備品等は、限りある予算の中で優先順位をつけ整備している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童生徒の学習に関する公費投入については二宮町の特色であり維持すべきと思われるが、限られた予算の中でどのように本事業を継続していくか検討が必要と考えられる。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	二宮中学校教育振興経費							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・教育効果向上に資する消耗品・備品購入等							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)					A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。					

## 総合評価

実績	学校の運営(授業・学習関係)について、適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の教育効果の向上	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,804	3,784	2,986	2,900		
財源内訳	一般財源	3,804	3,784	2,986	2,900		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する公費の投入により、家庭の経済的負担を軽減している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する備品等は、限りある予算の中で優先順位をつけ整備している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する公費投入については二宮町の特色であり維持すべきと思われるが、限られた予算の中でどのように本事業を継続していくか検討が必要と考えられる。	
	<b>【理由】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	<b>【今後の方向性】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	二宮西中学校教育振興経費							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・教育効果向上に資する消耗品・備品購入等							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。		

## 総合評価

実績	学校の運営(授業・学習関係)について、適切に予算執行した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			児童生徒の教育効果の向上

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,643	3,583	2,062	2,055		
財源内訳	一般財源	3,643	3,583	2,062	2,055		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習への公費投入については、二宮町における学習に対する考え方を元に行っている。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する公費の投入により、家庭の経済的負担を軽減している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する備品等は、限りある予算の中で優先順位をつけ整備している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒の学習に関する公費投入については二宮町の特色であり維持すべきと思われるが、限られた予算の中でどのように本事業を継続していくか検討が必要と考えられる。	
	<b>【理由】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	<b>【今後の方向性】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	学校図書館推進事業				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施</li> <li>・学校図書館システム(現状機器の維持管理・次期システムの検討)</li> </ul>				
根拠法令・条例等	学校図書館法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	学校図書館指導員については必要最低限の配置時間としており、削減は難しい。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	指導員の配置、図書館蔵書管理システム等、現状考え得る効率化対策を実施している。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 引き続き学校図書館を充実させていくため必要な取り組みをすすめていく。				

## 総合評価

実績	指導員の配置、蔵書管理システムの運用等とおして、円滑な学校図書館の運営を行うことができた。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校図書館の円滑な運営と読書活動の推進	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,506	3,500	3,572	3,572		
財源内訳	一般財源	3,506	3,500	3,572	3,572		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町立学校における学習活動に必要な事業のため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町立学校における学習活動に必要な事業のため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 各校で活発な読書活動が展開されているが、中学校の貸出冊数が少ない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 指導員は必要最小限の配置時間としており、蔵書管理システムも再リースにより効率的に運用している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 読書活動や調べもの学習等で有効に活用されており、引き続き必要な環境整備に努める。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	学校間ネットワーク推進事業				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状機器の維持管理</li> <li>・次期システム検討・導入</li> </ul>				
根拠法令 ・条例等					
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	本事業で実施している機器借上げは長期継続契約中であるため、契約中の見直しは困難である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	本事業で実施している機器借上げは長期継続契約中であるため、契約中の見直しは困難である。				

中間評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する                  B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する                  C: 事業全体を見直す必要がある                  D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)</p>	B
	【説明】	
	本事業で実施している機器借上げは長期継続契約中であり、適切に管理・使用されている。	

## 総合評価

実績	本事業で実施している機器借上げは長期継続契約中であり、適切に管理・使用されている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校間ネットワークの適切な維持管理活用。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		12,895	12,895	12,895	12,895		
財源内訳	一般財源	12,895	12,895	12,895	12,895		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 学校における業務等の効率化と防犯カメラを用いた不審者対策を目的に導入し運用している。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 県費負担教職員が適正に業務を行える機器を安定して運用する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 教育関係のネットワークを構築し運用することで、業務の効率化等に一定の成果を上げている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 現在、長期継続契約中である。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 現在、長期継続契約中である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	小学校教育用コンピューター整備事業				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状機器の維持管理</li> <li>・次期システム検討・導入</li> </ul>				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	ICTを活用した教育活動の推進を図る中で、いわゆるコンピュータ教室の在り方を見直す必要がある。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	今後、授業へのICT環境整備を推進することで効率的かつ質の高い授業を展開していくことが期待される。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。	

## 総合評価

実績	現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,402	4,402	2,486	2,486		
財源内訳	一般財源	4,402	4,402	2,486	2,486		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 現在の長期継続契約を締結した際の入札手法は、スケールメリットを活かした内容といえる。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  効率的かつ魅力ある授業づくりを推進するため整備を進める必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  計画的な整備を行う。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	中学校教育用コンピューター整備事業				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状機器の維持管理</li> <li>・次期システム検討・導入</li> </ul>				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	ICTを活用した教育活動の推進を図る中で、いわゆるコンピュータ教室の在り方を見直す必要がある。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	今後、授業へのICT環境整備を推進することで効率的かつ質の高い授業を展開していくことが期待される。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。	

## 総合評価

実績	現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,815	2,814	1,452	1,451		
財源内訳	一般財源	2,815	2,814	1,452	1,451		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 現在の長期継続契約を締結した際の入札手法は、スケールメリットを活かした内容といえる。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 現状は、パソコン教室を中心とした整備にとどまっている教育用コンピューターについて、効率的かつ魅力ある授業づくりを推進していくため総合的かつ計画的に整備していく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  効率的かつ魅力ある授業づくりを推進するため整備を進める必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  計画的な整備を行う。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成					
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)					
予算等事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・実施							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	事業の性質上、経費削減に重点を置くことは難しいが、実績や見通し等を勘案し、予算計上額をより精査することは可能と思われる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	事業の性質上、効率化に重点を置くことは難しい。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	法令等に則り、適切に事業を進めている。	

## 総合評価

実績	法令等に則り、適切に事業を進めた。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	経済的に就学困難な家庭に対して、義務教育にかかる費用を助成する。		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		14,562	14,084	17,582	16,398		
財源内訳	一般財源	14,500	14,056	17,431	16,343		
	国庫支出金	62	28	151	55		
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第19条および教育基本法第4条による。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第19条および教育基本法第4条による。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 経済的に就学困難な家庭に対して、義務教育にかかる費用を助成している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 適正な認定作業により、適切に実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 法令等に則り、適切に実施している。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	特別支援学級児童生徒支援事業							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・実施							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	事業の性質上、経費削減に重点を置くことは難しいが、実績や見通し等を勘案し、予算計上額をより精査することは可能と思われる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	事業の性質上、効率化に重点を置くことは難しい。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】	法令等に則り、適切に事業を進めている。	

## 総合評価

実績	法令等に則り、適切に事業を進めた。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			特別支援学級に在籍する児童生徒の家庭に対して、義務教育に係る費用を助成する。

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		795	708	943	903		
財源内訳	一般財源	545	363	614	465		
	国庫支出金	250	345	329	438		
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法および教育基本法による。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法および教育基本法による。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 特別支援学級に在籍する児童生徒の家庭に対して、義務教育に係る費用を助成している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 適正な認定作業により、適切に実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 法令等に則り、適切に実施している。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	小学校共通児童健康管理経費				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	・健康診断の実施				
根拠法令・条例等	学校保健安全法				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	定期健康診断等、円滑に実施されている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	法令に基づき健康診断等を実施しているため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	法令に基づき健康診断等を実施しているため。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	法令に基づき、着実に事業を展開している。	

## 総合評価

実績	法令に基づき、着実に事業を展開した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	法令に基づき実施する事業のため、目標数値の設定は困難である。	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,146	4,011	4,126	3,985		
財源内訳	一般財源	4,146	4,011	4,126	3,985		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 法令に基づき実施している。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 法令に基づき実施している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 法令にもとづき実施しており、児童の健康管理に活用している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 法令に基づき着実に実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 法令に基づき実施しており、引き続き着実に事業を執行していく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)				
予算等事業名	中学校共通生徒健康管理経費							
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。							
内容	・健康診断の実施							
根拠法令・条例等	学校保健安全法							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	定期健康診断等、円滑に実施されている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	法令に基づき健康診断等を実施しているため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	法令に基づき健康診断等を実施しているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】	法令に基づき、着実に事業を展開している。	

## 総合評価

実績	法令に基づき、着実に事業を展開した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			法令に基づき実施する事業のため、目標数値の設定は困難である。

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,876	2,604	2,856	2,620		
財源内訳	一般財源	2,876	2,604	2,856	2,620		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 法令に基づき実施している。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 法令に基づき実施している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 法令にもとづき実施しており、児童の健康管理に活用している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 法令に基づき着実に実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 法令に基づき実施しており、引き続き着実に事業を執行していく。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

## 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	特色ある学校教育推進事業(No.21)		
予算等事業名	教育研究所経費				
目的	児童・生徒が創意あふれた学習活動を展開するために、地域教育力の活用、教材研究、各種研修会の充実、幼児期から学校教育への円滑な接続と指導法の改善に努める。				
内容	・教育に関する研究活動、研究会の開催、社会科副読本編集発行、幼稚園・保育園・小学校の連携に関する諸事業の企画、実施				
根拠法令・条例等	二宮町教育研究所設置条例				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

### 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	必要最低限の経費で事業を運営しているため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	学校現場のニーズをとらえて講演会の内容等を見直ししていく。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	指導員による訪問指導等、教員の授業力向上にむけた事業や学力・学習状況調査の分析など、着実に事業を展開している。	

### 総合評価

実績	指導員による訪問指導など、授業力向上にむけた事業を着実に展開することができた。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	教員の指導力向上	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,842	1,760	1,826	1,785		
財源内訳	一般財源	1,842	1,760	1,826	1,785		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 法令に基づき設置しているため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 法令に基づき設置しているため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 指導員による訪問指導等で、教員の授業力向上に寄与している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限の経費で事業を行っている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校現場ではベテランと若手の二極化が進んでおり、若手教員を直接指導することが出来る中堅教員が少ない。研究所の指導、研修事業が貴重な機会となっていて、指導の結果についても学校の評判が良い。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	コミュニティ・スクール導入促進事業(No.22)		
予算等事業名	コミュニティ・スクール導入促進事業				
目的	地域とともにある学校づくりの手法の一つとして、コミュニティ・スクールの導入促進を図る。				
内容	・コミュニティ・スクール導入検討(研究会、準備委員会の開催)				
根拠法令 ・条例等					
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	県からの委託金を受けて事業を実施しており、補助額に見合った研究を計画的にすすめている。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	学校現場の意見を参考にしながら、効率的に研究を進めていく。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	1月20日のフォーラム開催に向け、準備を進めている。より一層一般町民向けの情報提供、啓発を行う必要がある。	

## 総合評価

実績	平成30年度からは一色小学校以外でもコミュニティ・スクールに向けて準備を始めるので、一般町民や学校など情報提供や啓発を引き続き行う必要がある。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	コミュニティ・スクールの指定に向けた組織体系の整備	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		202	132	267	180		
財源内訳	一般財源	68	45	89	60		
	国庫支出金	67		89			
	県支出金	67	87	89	120		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 国、県の補助を受けて実施している。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 国、県の補助を受けて実施している。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 一般町民や地域の方への情報発信の方法など、色々と課題が残った。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 国、県の補助に基づいて事業執行している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 準備委員会等で活発な意見交換を行ったが、なかなか町民の方に理解をしていただくのが難しく、平成30年度、一色小学校以外の学校がコミュニティ・スクール導入について動き出すので、一色小学校の反省を踏まえて行う必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  地域における協力体制について、理解が深まらない状況があるため。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  コミュニティ・スクールについて、地域の理解を深めてもらうための具体的な取り組みを行うとともに、協議会設置のための規則等の整備を行うとともに、情報発信の方法を検討していく。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	コミュニティ・スクール導入促進事業(No.22)				
予算等事業名	小中一貫教育研究事業							
目的	地域とともにある学校づくりの手法の一つとして、コミュニティ・スクールの導入促進を図る。							
内容	・検討組織の立ち上げ、課題の抽出と検討、視察等							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		次年度も引き続き検討を行うため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		新規事業のため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							B
	【説明】 小中一貫教育について引き続き具体的な検討を進める。							

## 総合評価

実績	小中一貫教育について、学校再編を含めた検討を進めた。また、町立学校教職員を対象とした研修会の実施、教員のワーキンググループによるカリキュラム検討を行った。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	特になし							
中期(29年度)目標値								【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	町の学校教育の将来像の検討。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費				900	780		
財源内訳	一般財源				200		
	国庫支出金						
	県支出金			900	588		
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町の将来の学校教育全般について検討するため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町の将来の学校教育全般について検討するため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 平成30年度も継続して検討を行う。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県委託事業を受託して実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 引き続き小中一貫教育について検討を行う。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  引き続き小中一貫教育について検討を行い、平成31年度に実施計画を策定するため。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入  平成30年度は外部有識者を含む「小中一貫教育推進研究会」で、検討を進める。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	支援教育推進事業(No.23)		
予算等事業名	支援教育推進事業				
目的	学校・家庭・関係機関等との連携のもと支援体制を整え、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、その持てる力や個性を伸ばす教育を進める。				
内容	・支援教育補助員の各校への配置				
根拠法令 ・条例等					
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	児童生徒数は減少しているものの、支援を必要としている子どもは増加している。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	各校の状況、要望を把握したうえで適切な人員配置を図る。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 前年度から引き続き中学校へも支援教育補助員を配置し、支援体制の強化を図っている。	

## 総合評価

実績	引き続き、中学校にも支援教育補助員を配置し、支援体制の強化を図った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	児童生徒の充実した学習活動を安心して学校生活を送るための環境整備を行う。	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		19,320	18,341	19,716	19,194		
財源内訳	一般財源	19,320	18,341	19,716	19,194		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町立学校の教育活動の一環として行っている。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町立学校の教育活動の一環として行っている。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 支援の必要な児童生徒はもちろん、周りの児童生徒も落ち着いて学校生活を送ることができる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 各校の実情に合わせて支援教育補助員の配置を行っている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 平成28年度から中学校へも支援教育補助員の配置を行い、支援教育の充実を図っているところだが、海外から転入する町民の増加や、支援の必要な児童・生徒が増加していることから、学校からは更なる支援員の増加の要望もあがっている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育相談・教育支援室事業(No.24)		
予算等事業名	教育相談・教育支援室事業				
目的	電話や来訪による学業上の悩みについて教育相談する。心の悩みのために学校に行けない・行かない児童生徒に対して指導を行い原籍校へ復帰を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理士、スクールソーシャルワーカー等による教育相談</li> <li>・不登校児童・生徒への支援による原籍校への復帰を促す</li> </ul>				
根拠法令・条例等	二宮町教育研究所設置条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	スクールソーシャルワーカーや心理教育相談員等、外部の専門家を交えた支援体制の必要性が増しており、経費の削減は難しい。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	児童生徒、保護者、学校のニーズに応じ柔軟なチーム支援体制を構築することで効率的な事業運営が可能となる。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	課題を抱えた児童生徒、保護者に対して多方面からかかわりを持ち、問題解決に取り組んでいる。	

## 総合評価

実績	心理教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる相談体制を強化することで、課題を抱えた児童生徒、保護者に対して多方面からかかわりを持ち、問題解決に取り組んでいる。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	特になし				
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	教育相談体制の強化	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,766	4,742	4,950	4,722		
財源内訳	一般財源	4,766	4,742	4,950	4,722		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町教育委員会の事業であるため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町教育委員会の事業であるため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 スクールソーシャルワーカーの業務内容について、より一層の認知度向上を図る必要がある。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 専門職である心理士、スクールソーシャルワーカーについて、一般的な報酬よりも低廉な額で業務を行っていただいている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 相談体制の強化を図ることができた。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)	
予算等事業名	二宮小学校教育施設整備事業			
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。			
内容	・施設維持活用のための整備(工事修繕、備品購入)			
根拠法令・条例等	学校教育法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	適切に執行できている。	

## 総合評価

実績	適切に執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安全安心な学校施設の維持整備	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		879	878	3,646	3,150		
財源内訳	一般財源	879	878	3,646	3,150		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課	
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)	
予算等事業名	一色小学校教育施設整備事業			
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。			
内容	・施設維持活用のための整備(工事修繕、備品購入)			
根拠法令・条例等	学校教育法			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	適切に執行できている。	

## 総合評価

実績	適切に執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安全安心な学校施設の維持整備	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		262	210	2,415	2,412		
財源内訳	一般財源	262	210	2,415	2,412		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)				
予算等事業名	山西小学校教育施設整備事業							
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。							
内容	・施設維持活用のための整備(工事修繕、備品購入)							
根拠法令・条例等	学校教育法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 適切に執行できている。				

## 総合評価

実績	適切に執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安全安心な学校施設の維持整備	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		20,006	19,954	3,038	2,976		
財源内訳	一般財源	20,006	19,954	3,038	2,976		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)		
予算等事業名	二宮中学校教育施設整備事業				
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。				
内容	・施設維持活用のための整備(工事修繕、備品購入)				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	<b>【説明】</b> 適切に執行できている。	

## 総合評価

実績	適切に執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	<b>【目標値の根拠または数値で表わせない指標】</b>				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安全安心な学校施設の維持整備	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		375	367	4,838	4,837		
財源内訳	一般財源	375	367	4,838	4,837		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)		
予算等事業名	二宮西中学校教育施設整備事業				
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。				
内容	・施設維持活用のための整備(工事修繕、備品購入)				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	計画的な施設および設備整備を実施していけば中長期的には経費削減に繋がると考えられる。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	適切に執行できている。	

## 総合評価

実績	適切に執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安全安心な学校施設の維持整備	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		268	196	5,218	5,174		
財源内訳	一般財源	268	196	5,218	5,174		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 施設及び備品関係の老朽化に対応していく必要がある。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)				
予算等事業名	二宮小学校施設管理運営経費							
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。							
内容	・施設管理運営							
根拠法令・条例等	学校教育法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。							

## 総合評価

実績	学校の施設管理運営について、必要な経費を適切に予算執行した。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(29年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校を適切に運営し、安心して教育を受けることができる環境を作る。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,859	2,699	2,797	2,792		
財源内訳	一般財源	2,859	2,699	2,797	2,792		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、引き続き適切な予算措置を行う必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)		
予算等事業名	一色小学校施設管理運営経費				
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。				
内容	・施設管理運営				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。	

## 総合評価

実績	学校の施設管理運営について、必要な経費を適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校を適切に運営し、安心して教育を受けることができる環境を作る。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,749	1,673	1,728	1,703		
財源内訳	一般財源	1,749	1,673	1,728	1,703		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、引き続き適切な予算措置を行う必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)		
予算等事業名	山西小学校施設管理運営経費				
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。				
内容	・施設管理運営				
根拠法令・条例等	学校教育法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。	

## 総合評価

実績	学校の施設管理運営について、必要な経費を適切に予算執行した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校を適切に運営し、安心して教育を受けることができる環境を作る。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,054	1,850	2,046	1,971		
財源内訳	一般財源			2,046	1,971		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、引き続き適切な予算措置を行う必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)				
予算等事業名	二宮中学校施設管理運営経費							
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。							
内容	・施設管理運営							
根拠法令・条例等	学校教育法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。							

## 総合評価

実績	学校の施設管理運営について、必要な経費を適切に予算執行した。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(29年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校を適切に運営し、安心して教育を受けることができる環境を作る。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,599	2,391	2,520	2,463		
財源内訳	一般財源	2,599	2,391	2,520	2,463		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	<b>【説明】</b> 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	<b>【説明】</b> 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	<b>【説明】</b> 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	<b>【説明】</b> 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、引き続き適切な予算措置を行う必要がある。	
	<b>【理由】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	<b>【今後の方向性】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)				
予算等事業名	二宮西中学校施設管理運営経費							
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。							
内容	・施設管理運営							
根拠法令・条例等	学校教育法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		学校教育に関して経費削減に重点を置くことは馴染まないが、適切に運営されている。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、適切に予算執行している。							

## 総合評価

実績	学校の施設管理運営について、必要な経費を適切に予算執行した。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(29年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	学校を適切に運営し、安心して教育を受けることができる環境を作る。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,504	2,431	2,401	2,366		
財源内訳	一般財源	2,504	2,431	2,401	2,366		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	<b>【説明】</b> 学校教育法第5条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	<b>【説明】</b> 学校教育法第5条による。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	<b>【説明】</b> 児童生徒が安心して教育を受けることができる環境を整えている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	<b>【説明】</b> 学校教育に関して効率性に重点をおいて評価するのは馴染まないが、適切に運営されている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	<b>【説明】</b> 学校の運営について、二宮町における教育に対する考え方を元に、引き続き適切な予算措置を行う必要がある。	
	<b>【理由】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	<b>【今後の方向性】</b> ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	教育施設整備事業(No.25)		
予算等事業名	学校給食施設管理運営経費				
目的	学校施設改修及び備品の購入を行い、教育環境の整備につとめる。				
内容	・施設管理運営				
根拠法令・条例等	学校給食法				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	委託等は、既に入札を実施し経費削減に取り組んでおり、現状以上の削減が難しいと思われる。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	委託等を入札に付すなど、効率化は既に積極的に行っているため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 児童生徒に安心安全でおいしい給食を確実に提供できており、年度後半においても引き続き事業を推進する。	

## 総合評価

実績	児童生徒に安心安全でおいしい給食を確実に提供することができた。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)					
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	安心安全でおいしい給食を児童生徒に提供する。	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		30,879	30,069	31,529	30,402		
財源内訳	一般財源	30,879	30,069	31,529	30,402		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 学校給食法第11条による。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 現学校給食センター建設時に、町直営方式で運営するという方向性の中で実施している。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 町立小中学校に通う児童生徒に安心安全でおいしい給食を提供できている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 保守点検委託については、入札を実施する等し、適切に実施している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C: 事業の見直しが必要 D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 学校給食を適切に管理運営し、町立小中学校に通う児童生徒に安心安全でおいしい給食を提供できている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課					
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成				
分野別方針	子育て・子育て、教育		実施計画事業	学校・地域連携事業(No.26)				
予算等事業名	児童・生徒安全対策事業							
目的	児童・生徒の日常的な防災意識の高揚と災害時の完全確保を図るため、地域との連携を強化する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒安全対策協議会において関係機関との情報共有や見守り重点日の実施</li> <li>災害用備蓄品の整備</li> </ul>							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	コミュニティ・スクールの導入等により、効率化をすすめられる可能性がある。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	町の防犯対策部署や警察等の関係機関との連携を進め、効率的かつ効果的な児童生徒の安全対策の検討を進めていく。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 児童生徒の防犯体制について、引き続き検討が必要である。災害対策として、災害時備蓄品の整備は着実に進めている。		

## 総合評価

実績	児童生徒の防犯、災害対策のため、着実に事業を実施した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	特になし		
中期(29年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			児童生徒の防犯体制、ならびに災害時への備えの強化

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		494	387	443	344		
財源内訳	一般財源	494	387	443	344		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 児童生徒の防犯対策、災害時への備えのため	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 児童生徒の防犯対策、災害時への備えのため	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 備蓄品の購入等は着実に進められている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 備蓄品購入等は継続実施する必要がある。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 引き続き児童生徒の防犯・安全対策のため事業を実施する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 地域、警察等と連携した防犯対策について、検討が必要なため。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 コミュニティ・スクール導入後の体制について検討する。	

# 基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	教育部 教育総務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-2 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成		
分野別方針	子育て・子育て、教育	実施計画事業	学校・地域連携事業(No.26)		
予算等事業名	教育委員経費				
目的	地方公共団体の教育全般に関する内容を管理執行する。				
内容	原則として、月1回、定例教育委員会議を行い、学校教育及び社会教育等について審議する。				
根拠法令・条例等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

## 中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	事業の性質上、現状以上の経費削減は困難。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	事業の性質上、計画通りに進捗がする事が望ましいと考えられる。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】	事業の性質上、今年度については、計画通りに進捗がする事が望ましいと考えられる。			

## 総合評価

実績	定例会、月1回開催(年間12回開催) 臨時会1回開催(3月30日)				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	定例会 月1回実施				
中期(29年度)目標値	定例会 月1回実施		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	条例規則等では、開催回数の定めはないが、慣例として定例会は月1回実施している。	
	12	13			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,556	1,549	1,550	1,545		
財源内訳	一般財源	1,556	1,549	1,550	1,545		
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 二宮町における教育全般に関する内容を管理執行するため。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 二宮町における教育全般に関する内容を管理執行するため。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 二宮町における教育全般に関する内容を適切に管理執行している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 適切な費用で二宮町における教育全般に関する内容を管理執行している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持 B:妥当性・有効性・効率性は良いが、さらに改善の余地がある C:事業の見直しが必要 D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 法令等に則り、適切に実施している。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	